

## 第4回浪江町中心市街地再生計画職員検討会

日時：平成29年1月24日（火）13:25～16:20  
場所：浪江町役場本庁舎 2階会議室

### 1. 開会

事務局の進行にて開会。

### 2. 挨拶

窪田特任教授より挨拶。

### 3. 会議

#### (1) 事務局から経過報告

- ・第3回検討委員会、第3回職員検討会の結果報告

#### (2) 検討委員会報告書（案）について

①検討委員会報告書（案）について説明

②検討委員会報告書（案）の内容について議論

○検討委員会報告書（案）についての主な意見。

意見：P5の○4つ目の帰還の判断材料とは何か。

回答：町がにぎやかになり、サービスも充実していると戻ろうといった気にもなる。そういったものが帰還の判断材料になるのでは思う。最近では女川町の事例が良い。女川町内でのにぎわいがあり、外に出て行かずに女川町で頑張ろうという気になっているように見受けられる。

意見：P5○2つ目では、町外から訪れる人を町に呼び込む考えはあるのか。

回答：役割では記載がない。P18記載があるため記載する。

意見：交流人口の記載もするべきではないか。

回答：交流人口と新たに居住する人についての記載も行う。

意見：P7の計画目標年次について復興計画第二次との整合性はとれているか。

回答：整合性は確認している。

意見：浪江町中心市街地再生計画はこの後も更新があるのか。

回答：フォロー体制は改めて考えなければならない。見直していく必要があるかもしれない。

意見：中心市街地と浪江町内の施設で中心市街地から離れている箇所とのネットワークについては記されているか。

回答：再生計画報告書には書かれていない。

意見：P7 対象区域図で地域スポーツセンター、ふれあいセンターが赤の対象範囲から外れている。今回は浪江駅で区切っているが。

回答：対象区域図のみ地域スポーツセンター、ふれあいセンターが中心市街地から外れている。地域スポーツセンターの事は全体には記述されているため修正する。

意見：対象区域図についてどの基準で施設が表記されているか解らない。区域の概念でよく整理すべきではないか。

回答：サンシャイン浪江の表記を削除し、道の駅の表記をいれる。

意見：詳しい位置図のようなものがあると良い。

回答：町民座談会などで使用した A3 議論のまとめを報告書に載せる。A3 版で見やすい形で表記する。P8 下から 4 行目の(1)を削除する。

意見：復興計画第二次では中心市街地再生計画がどのように関係していくか。

回答：中心市街地再生計画書の概要版を載せて頂くようお願いしている。

意見：P9 の本通りどこか。

回答：事務局の方で確認をとる。

意見：裸参りは浪江神社に係わる行事なので文中に浪江神社の神事と入れた方が良いのでは。対象区域にも浪江神社の表記があったので、入れた方が分かり易いのではないか。

意見：裸参りのルートなどを地図に落として頂けると分かり易いのではないか。

意見：十日市の開催日時について 11 月 22 日を含めた形での 3 日間である。

意見：震災前の概要をたんと書くのは報告書としてどうか。報告書の中で整合性がとれて分かりやすいのであれば良いが。

回答：P11、P12 のデータは、震災前のデータのため語尾を過去形にする。

意見：町民座談会では中心市街地のにぎわいを戻そうという議論で進めていたが、P15では震災前からさびれていたととれる表現になっている。

回答：伝統文化などを守ってきて、祭り等では賑わいがあったが、現状では減少傾向にあるという表現に変更する。

意見：P15の再開事業者数の記載について浪江町での再開事業者数は現在で45になっている。

回答：再開事業者は徐々に増えており、平成28年10月～と変更する。

意見：直近まで変化を追加するのも良いと思う。

意見：生活サービスに係わる業種の事業が再開しているかが不明である。

回答：再開事業者数の最新の資料を担当課より頂く。

意見：前日も発言したがP16の③で高齢者が出てくるが、子供や若者の話が無い。

回答：課題で追加する事はできるが、その後の施策と繋がってこない。第2章、第3章については、高齢者に限定した書き方ではないので、課題③のタイトルを「町民のための生活サービス、生きがい」とし、特に帰還時には高齢者が多く～という書きぶりに変更する。

意見：子ども、若者というキーワードを入れるのであれば、外から色々な人がくるであるとか交流できる機会があるだとか、魅力があるという事をうまく出せると良いのではないか。いまの③への対応策はあたりまえに見える。具体的な施策が追いついていないというのかもしれないが出来ればそういうキーワードを入れて欲しい。

回答：子ども達だけのための施策というのは難しい。

回答：すぐに子ども、家族が戻ってこないという課題があるので。マラソンといったイベントの積み重ねが大事である。そういう意味でのキーワードは報告書の中に出てきていると思う。若者向け、ファミリー向けの施策をやっつけていかなければならない。足りないならば付け加える必要があるのでは。おそらく書き方の問題で、すでに報告書の中に記載しているのではないか。

質問：課題⑤のタイトルは課題が二つあるような書き方になっている。

回答：道路拡張といった表現を避けるためであったが、交通事故防止を削除する。

質問：表現の変更はおまかせする。課題⑧就業者の増加対策の検討について、ここでは就業者を呼び込むのか、職を増やすのか。

回答：定職ではないが人手が足りない箇所はある。職はあるが、人が足りないという状況。P28 の意見整理の箇所の居住場所の確保の所に、就労者を呼び込むために等を追加する。

質問：体系図の関係と目指す機能の関連性がわからない。目指す機能はなくてもよいのでは。

質問：P22、P23 の目指す機能と、活用される資源は前後のつながりが解らない。

回答：目指す機能の内容は不足があれば目標等に追加し、削除する。

質問：P17 の活用される資源の記述をもう少し増やした方が良い。

質問：第 2 章の施策の前に体系図がきて、施策について記載していくのがよいのではないか。

回答：第 3 章の 3-2 に資源の話を加え、3-3 に施策の実現手法について記載する。

### (3) 中心市街地再生計画について

①中心市街地再生計画の発信と共有について

②中心市街地再生計画の実現方法について

○各委員の中心市街地再生計画の発信、共有、実現方法案。

- ・外からどう人を呼び込むか、PRしていく必要がある。PRするツールは口コミ、SNS が非常に大事だと考える。例えば、浪江に来た人が他の人に伝え、繋がっていく。時間はかかるかもしれない。JRは、常磐線が再開する時などに、駅からハイキングというのをやっているため、再開に合わせてJRとタイアップをし、現状を見てもらうのも良い事だと思う。また、小さな祭りなどを毎年行い、活気が戻って来たという事を年々感じてもらうのも良いのではないかと考える。
- ・実現していく人がいないと進まない。担い手になる人は大事。本当は自主的にやってもらいたいが、やる気を失わないように、支援する事も大事だと思う。町で健康作りをやっていくのは難しいため、町民にしてもらい、最初から手を離すとなくなってしまうので、長期的なフォローが必要だと考える。
- ・活性化するにあたり人を多く呼び込まないと活性化しない。普通の事をやっても誰もこないと思う。ダッシュ村・ap bank は、若い人の関心があると思う。ap bank に関しては、女川の復興支援のボランティアできてもらい、フェスなどをやってもらった事例もある。そのため、一過性かもしれないが、起爆剤としてイベントを開催したい。まずは浪江の現状を知って貰う事が大事だと考える。
- ・JR が再開するので情報の発信が大事。町がやっている事を皆にわかるように発信すべき。住む環境住める環境を目指すべき。

- ・参考資料に職員検討会の議事録を載せて頂きたい。座談会に来て頂いた住民の方々は明日町がなにをやってくれるのかという緊迫感がある。役所は年度毎であり、町民と町の間には差がある。その差をなんとか埋めないといけないのでは。新町通りの片隅に役場がどう動いているかわかる施設を設置するのも良いのではと考える。

今回の職員検討会でも通常業務があるなかで検討会に参加して頂き、まちづくりが好きでやってくれている方が大変になっていく。このシステムは変えていかないと続いていけないのではと考える。

中心市街地再生が終わる頃に向けて、先の事を今から考えていくのも重要な事であると思う。

- ・再開した事業者さんのネットワークを繋げるのが重要ではないか。外への発信も必要であるが、町内の情報交換も大事である。

先に避難指示解除した他の近隣自治体との連携も必要なのでは。南相馬ともつながりが深いので重要であると考えます。

- ・実施主体の話になると話が進まない。実施主体を育成、やってくれる人を探すアンテナが必要。計画を実施するには人が大事になってくると考える。発信については、浪江単独では難しいため、近隣自治体と連携して行うべき。道の駅では、浪江だけでなく双葉の事、近隣自治体の事も考えていけると良いのではないか。

- ・道の駅ではすでに、避難指示が解除されていない帰れない町についての情報も発信していく事になっている。生産者から中心市街地で野菜を売れるような場所を欲しいという意見があった。

- ・中心市街地の計画なので中心市街地の人が中心になると思うが、中心市街地以外の方で、「帰町したら盆踊りしたいね」という話が出ていて、中心市街地でやったら人が集まるのではないかという話も出ていたが、中心市街地の人達に遠慮してしまうのではと考えられる。他の地区の人達も気軽に参加して盛り上げられるような仕組みがあれば町も盛り上がっていくのではないかと思う。報告書は文字が多いのでイラストなどの挿絵も必要ではないか。

- ・元々の町民が戻ってくるのが良いが、帰ってきてくれないのなら、他の地域の人々が戻ってくるようにしなければならないと思う。そういう人たちが定住を求めるには、楽しいと思う状況が町に必要なと思う。楽しくないと人は集まってこない。続けていこうと思わない。今回の計画でも、イベントをやって楽しいまちづくりで終わるのではなく、持続できるような、これから町を成長させるような、楽しみを盛り込みながらやっていくのも良いのではないかと思う。